

令和8年度

南井上小学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○基礎基本を充実させるための「書く・聞く・話す」活動の実践
○主体的に課題を解決するための思考力・判断力・表現力の育成

校長

榎本 久美
-------

学力向上推進員

貴志 久美子
--------

【各校の取組状況の把握について】

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

管理職による授業参観や教員からの報告、さまざまな機会を捉えて、取り組み状況の把握を行う。
--

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字の読み書きや計算など基本的な学習に意欲的に取り組める児童が多い。 ●基本的な学習内容が十分定着しておらず学力の二極化が見られる。語彙数が少なく、問題を読み取る力や学習したことを言葉や文章で表現したり生活に生かしたりできる力の育成が課題である。	・基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけることができる。 ・語彙を増やし、正確に文章を読むことができる。また、より適切な言葉を用いて話したり、文章を読んだり書いたりすることができる。	・朝活で、読書タイムを計画的に実施し語彙力・読解力の基礎を身につけることができるようにする。 ・効果的なノートの取り方、短文の作り方、工夫した日記の書き方等を教師が共有し、使える言葉や漢字を増やしていく。 ・子ども新聞を活用した視写の活動を積極的に取り入れ、文節や言葉、意味のまとまり等をとらえられるようにする。 ・タブレットを効果的に活用し、個に応じた基礎学力の定着を図る。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分なりの考えをもち、意欲的に発表したり文章に書いたりできる児童が増えてきている。 ●自分の意見や考えを相手と比べながら考え、よりよい考えにまとめていくことが苦手である。	・相手の話を最後まで聞くことができる。 ・自分の考えを理由や根拠を明確にして伝えたり、相手の考えと比較しながら聞いたり、よりよい考えをまとめていくことができる。	・学習後のふり返りを大切にし、自分はその時間に考えたことについて表現する習慣をつける。 ・相手の意見に対して自分の考えを根拠や理由を明らかにしながら伝えたりする学習活動を意図的に設定する。 ・タブレット等のICTやホワイトボード、付箋などを効果的に活用し、多様な方法で児童が互いに意見を出し合い協働的に学ぶ場を設定する。 ・学級会等で、根拠や理由をはっきりさせて話し合う経験を積めるよう、話し合いの場を設定する。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○意欲的に学習し、与えられた課題に、真面目に一生懸命取り組める児童が多い。 ●難しい課題になると、諦めて最後まで取り組むことができなかつたり受け身になつたりする児童がいる。	・決められた課題だけでなく、初めて出合った課題に対しても、身に付けた力を生かして、自分なりに解決していくことができる。	・タブレット等ICTの活用を図り、児童が進んで課題に向き合える時間を確保する。また、自力解決時の考え方を分かりやすく伝え合えるようにする。 ・家庭学習の手引き等を活用し、家庭と連携しながら家庭学習・読書活動の習慣化を図る。			